

平成30年度大原・桂木地区防災フェア・防災訓練(H31年3月31日)

20190308 Ver.4

大原・桂木地区

防 災 訓 練 実 施 要 領

実施日：平成31年3月31日(日)

会場：大原・桂木地区 桂木小学校(校庭)

参加団体：神戸市北消防署、水道局北センター、神戸市あんしんすこやかセンター、神戸市北社会福祉協議会、
神戸市危機管理室(SNS地域実証訓練検討会)

訓練実施目的

- ① 防災福祉コミュニケーション事業の活性化、「避難所自主運営マニュアル」の有効性確認
- ② 緊急災害時の自衛消防隊本部設置要領の確認
- ③ 地域内土砂災害危険区域の把握
- ④ 地域内ハザードマップの作成
- ⑤ 要援護者支援体制の確立
- ⑥ 災害時避難誘導防災訓練

訓練規模

- ① 避難誘導訓練(安否確認)
 - ・「黄色いタオル」の掲示：全世帯
 - ・要援護者台帳活用による避難支援訓練：モデル地区＝大原1丁目
 - ・避難方法、経路の確認＝各自治会・各班、ハザードマップの活用他
- ② 避難所設定・トリアージ訓練、情報収集訓練
- ③ 参加団体指導による各種訓練＝消火訓練、防災資・機材取扱訓練、土嚢づくり、給水訓練他
- ④ 「ひとり歩き」高齢者に対する声かけ訓練
- ⑤ 炊き出し訓練

平成31年3月31日(日)大原・桂木地区(総合)防災訓練 (案)

関係機関

安否確認・避難訓練		各自治会・防コンメンバー、各種団体	
時間	災害対策本部	安全確保、自助行動 自治会役員・防コンメンバー主導に各班で活動開始	認知症徘徊模擬訓練 あんしんすこやかセンター
8:30 8:45	地震発生 安否・被害状況確認(メール発信)		
9:00	訓練開始	班別に安否確認 ⇒ 『安否確認タオル』を活用【全世帯参加】	
9:30	災害対策本部設置準備 *対策本部 福祉センターから小学校に移設	*要援護者台帳活用による安否確認 具体的な避難支援訓練：大原1丁目/2モデルを設定 被害状況確認	
9:45	災害対策本部設置(メール発信)		
	災害本部/自衛消防隊結成 班編成と役割分担	避難支援訓練 ・要援護者台帳の活用 ・ハザードマップの活用	
	避難者受け入れ準備、開始 あんしんすこやかセンターに連絡	〇〇自治会安否確認で、認知症徘徊が発生 。安否確認後混乱で行方不明、家族、近隣住民で 捜索、捜索応援要請	*声掛け訓練 10:00 声かけ訓練オリエンテーション 10:15 警察に通報所在不明者の捜索要請 ＜認知症徘徊訓練開始＞
10:30	消火、救急・救援機材取扱訓練 (校庭内の各エリア別)	*トリアージ訓練 *北消防署指導による実地訓練 ・消火訓練、土嚢づくり *神戸水道局北センターによる給水訓練	訓練コース 校庭内概略コース設定/3モデル程度 声かけ要領他事前に説明 徘徊者発見・保護
12:00	午前中 各訓練の終了⇒所見、意見交換、訓練補足etc		
12:30		炊き出し訓練	
14:00	訓練終了、片付け		

※：各自治会はあらかじめ担当者の割り振りを行って対応する(部が同時進行するため)
各訓練の進行状況は暫時 場内アナウンスで参加者に伝達する

※：住民の参加・見学は自由参加とし、事前に積極的な訓練参加を呼び掛ける

LINEを活用した防災訓練

1. 目的
近年、多くの方々が、ソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）を活用し、時々刻々と変化する情報を数多く発信しています。これらSNSにより発信される情報は、災害現場又はその近辺からの発信である場合や、災害発生直後、場合によっては災害発生前後の時間経過に合わせて発信される等、臨場感、即時性を有する貴重な情報源に活用できます。
今回LINEを活用し、新たな視線で防災訓練を通して「安否確認や被害状況の確認、位置情報の確認、地域住民同士の不安や被災状況を共有し、その活用及び問題点を検討することで、大原桂木地域における防災力の向上をはかることをめざします。

2. 日時
平成31年3月31日 8:30から14:00まで

3. 場所
桂木小学校

4. 参加者

5. 実施内容
大原・桂木地区(桂木小学校区住民)

みんなの訓練支援ロボットを使用して、「安否状況の確認」「被害状況の確認」「位置情報の確認」「被害画像情報の提供」の提供をおこなっていただき、それらの情報の有効な活用方法及び問題点を洗い出し、今後の災害発生時に役立てる方法を検討します。

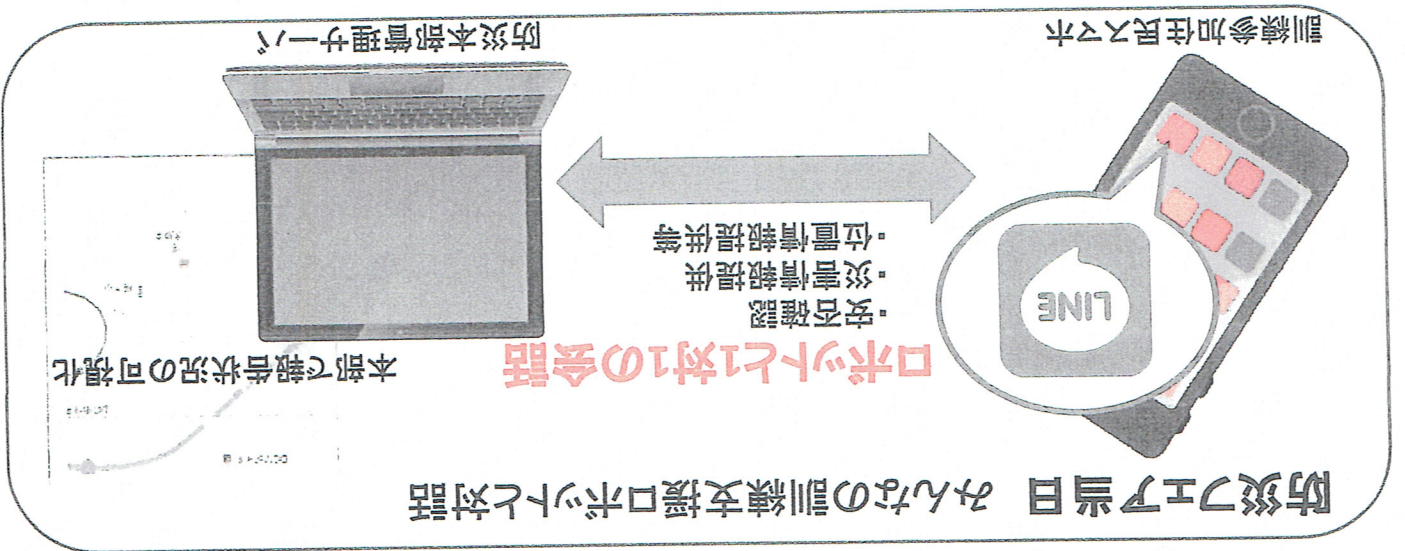
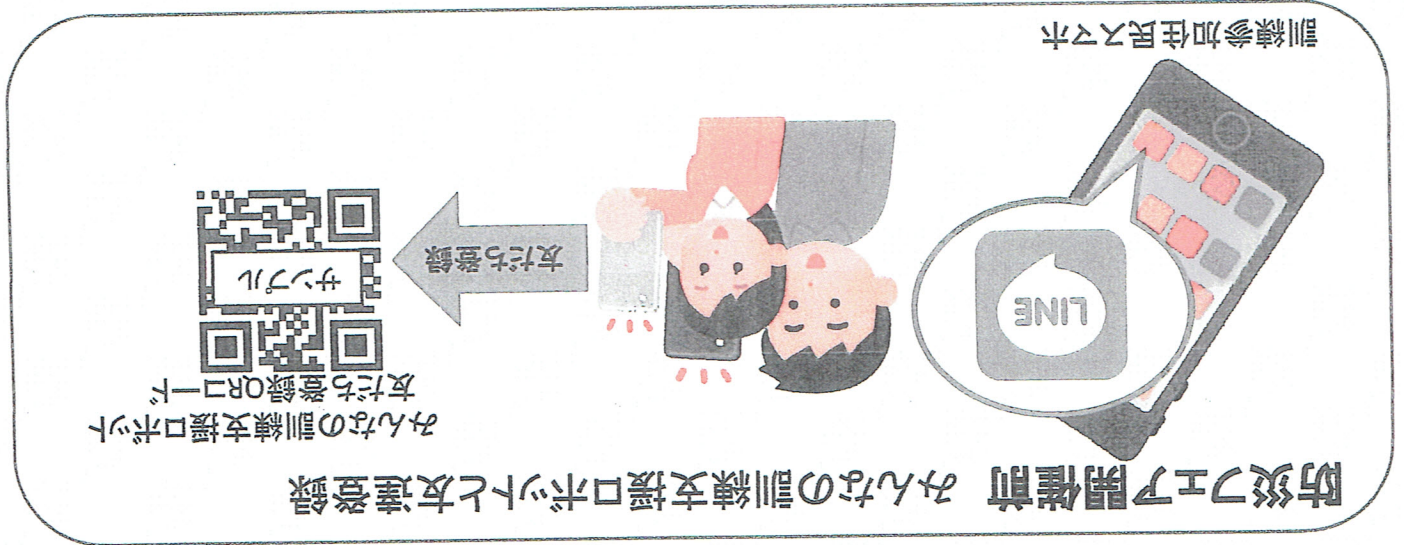
<集約された、情報の検討>

今回のLINEによる防災訓練の実施は、ロボットとの1対1の対話であり、他のLINEユーザーからは見ることができません。ただし、家族などとは情報共有したほうが良いと考え、住民による地域住民のための情報共有ができる仕組みづくりの構築へ向けての課題を抽出し今後の活動の方針を検討していきます。

実施例

- みんなの訓練支援ロボットからの問いかけに答える形で、安否情報の提供を行う。
- みんなの訓練支援ロボットからLINEで訓練の状況を逐次通知する。
- みんなの訓練支援ロボットが家族に伝える。
- みんなの訓練支援ロボット機能を活用し
- LINEの位置センサ情報とみんなの訓練支援ロボット機能を活用し
- 土砂崩れなど、地域住民間で写真や位置情報を共有する。

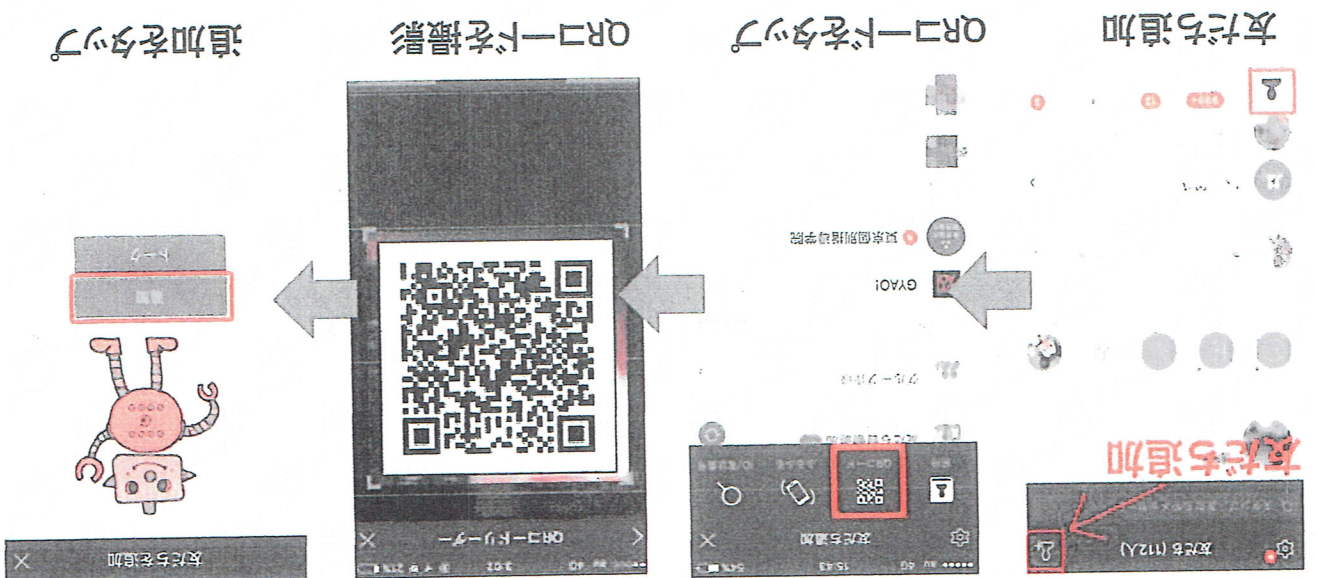
LINE & ロボット活用防災訓練 全体イメージ



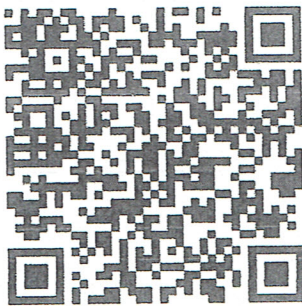
- ・ロボットと対話していただいた情報はLINEではなく、防災本部の管理サーバに届きます。
- ・ロボットと対話中カメラや位置情報の許可を聞かれる場合があります。
- ・ロボットと1対1の会話なので、他の住民とはつながりません。
- ・訓練後送信頂いたデータは消去します。ロボットのアカウントはログイン・削除いただいております。

みんなの訓練支援ロボットアカウントとの友達登録方法

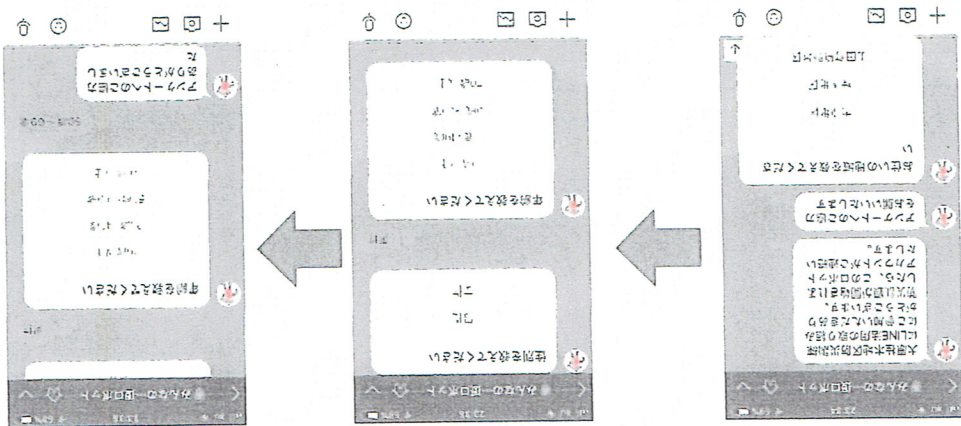
【登録方法】LINEの友達追加操作で下記QRコード読み取りを利用



みんなの訓練支援ロボット
友だち登録QRコード



追加後アンケートへの登録をお願いします。



防災訓練当日のロボットとの対話状況サンプル画面

The screenshots show the following conversation flow:

- Top-Right Screenshot (23:46):** The bot sends a message: 「これは、防災訓練であり実際に大地震は発生しておりませんのでご理解の程、よろしくお願いたします。」. The user replies: 「ご自身の安全は確保されましたでしょうか。」. The bot responds: 「大風桂木防災福祉コミュニティ本部です。地震発生。震源：淡路島北部 最大震度：7 ますは、ご自身の安全を確認させていただきます。」. The user asks: 「皆様の安全を確認させていただきますか。」. The bot replies: 「はい。ご自身の安全は確保されましたでしょうか。」.
- Top-Left Screenshot (23:48):** The user asks: 「大風桂木防災福祉コミュニティ本部での災害状況の共有に協力ください。」. The bot replies: 「報告するにまずは「報告はごちからから」の「報告」を押ししてください。」. The user asks: 「でしようか。」. The bot replies: 「確認中。」.
- Bottom-Right Screenshot (23:48):** The user asks: 「状況を見せてください。」. The bot replies: 「状況を見せてください。異常なシステムです。異常なシステムです。」. The user asks: 「あなたの位置を教えてください。」. The bot replies: 「位置情報を取得する今はできない。」.
- Bottom-Left Screenshot (23:48):** The user asks: 「カメラを起動する撮影済みのものから選択写真はない。」. The bot replies: 「写真はない。」.

Red circles and boxes highlight the following text in the screenshots:

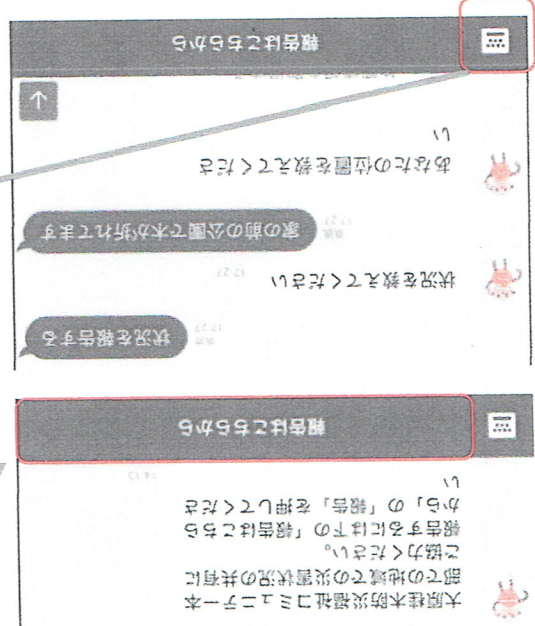
- 「位置情報を取得する今はできない。」 (Circled in red)
- 「写真はない。」 (Circled in red)
- 「カメラを起動する撮影済みのものから選択写真はない。」 (Circled in red)
- 「確認中。」 (Circled in red)
- 「状況を見せてください。」 (Circled in red)
- 「報告はごちからから」 (Circled in red)

被害状況等の報告について

▽つまづきそうな操作

報告はこちらからの押せる部分

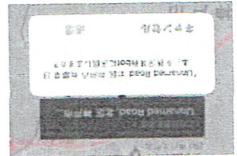
状況を教える時に文字入力するには
こちらのキーボードを押して、
文字入力画面を呼び出します。



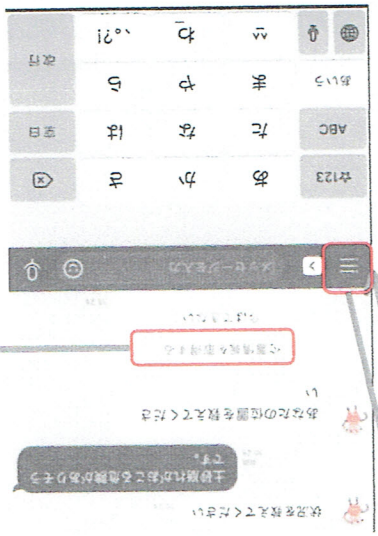
地図の部分に触れると背景の地図をずらすことができます
状況を報告した位置に赤いピンを合うようにずらして下さい



場所が合えば住所の書いた黒い吹き出しを押して下さい



問題なければ送信をおして下さい



何度でも、何か所でも報告いただけます。

